第６学年　情報モラル教育学習指導案

１　指導観

○　本学級の児童は情報機器に触れ合う機会が多いと言える。図－１を見ると、学級全体の 79%が家庭でパソコンを使っていることが分かる。

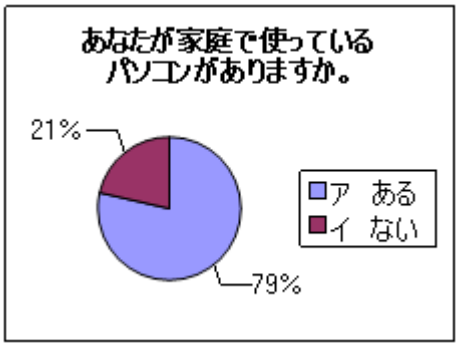
図－２を見ると，その内，77%の児童がインターネットを利用していることが分かる。しかし，図－３を見ると，家庭でパソコンを利用している児童の 48%が，パソコンを利用する際の保護者とのルールがないと答えている。つまり，パソコンを利用する機会が増加しているが，インターネットの危険性にさらされていることが考えられる。

また，図－４を見ると，パソコンを利用する上で必要なルールについて，「変なサイトを見ない」「個人情報を書き込まない」などのインターネット閲覧時のモラルについての解答が多かった。少数意見として，「長時間しない」という健康に関することが３人。「悪いことは書き込まない」という掲示板に関することが４人いた。しかし，情報モラル全般から考えると「個人情報」「有害情報」という一部分についてのみの知識であり，情報モラルが十分に身についているとは考えにくい。

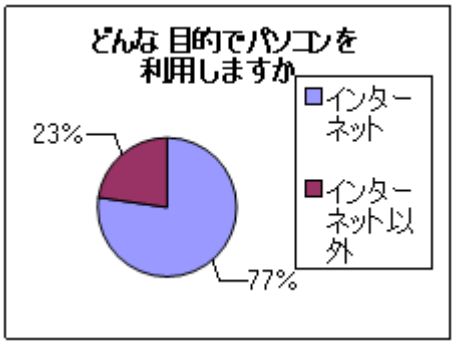
図－５を見ると，著作権という言葉を知っている児童は７％である。

図－６を見ると，コンピュータウイルスという言葉を知っている児童は 21.4%いた。しかし，すれ違ってうつるというような誤った理解をしている児童がいた。

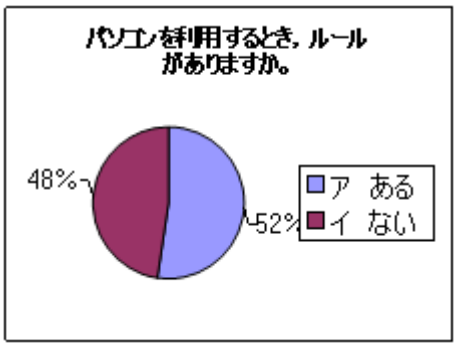
このように，本学級の児童は情報モラルについて全く知識がないわけではないが，情報モラルが十分に身についているとは言えない。



図－１



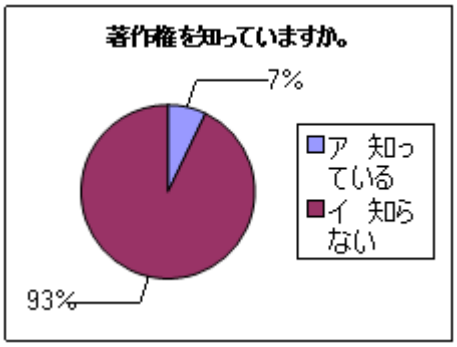
図－２



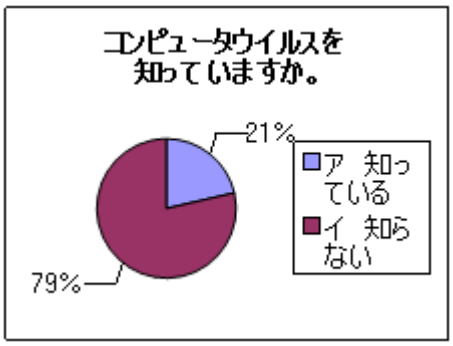
図－３

・変なサイトを見ない（１３人）・個人情報を書きこまない（５人）
・やりすぎない（１人）・知らない人のメールは親に言う（１人）
・悪いことを書かない（４人）・人が嫌がることはしない（１人）
・大人と使う（２人）・知らないメールは無視する（１人地）
・時間を決めてする（２人）・課金サイトを見ない（１人）
・夜遅く使わない（１人）

図－４



図－５



図－６

○　情報モラルの指導にあたっては，情報モラル指導カリキュラム表に準じて指導していく。今回は５項目の内，情報モラルの目標が明記されている３項目（情報社会の倫理，安全への知恵，情報セキュリティ）について指導していく。

まず，携帯電話の所有率が高くメールを利用しているという実態から「チェーンメール」について指導する。チェーンメールは突然送られてくる迷惑メールである。実際にチェーンメールが送られてきた場面を疑似体験させることで，身近なものとして考えられるようにする。そして，チェーンメールが送られてきた場合，どのように対応すればよいか，正しい知識を身につけ対応できる態度を養うようにする。

次に，メールの危険性として「ワンクリック詐欺」について指導する。この時期の児童は好奇心旺盛である。そこで実際にワンクリック詐欺の場面を疑似体験させ，どう対応すればよいか考えさせる。そして，危険を回避することができるように正しい知識と方法を身につけさせる。

次に，実態調査で意外と知らない児童が多かった「著作権」について指導する。著作物について正しい理解がされていないと考える。そこで，実際に行っている情報収集や整理，表現物の作成を疑似体験して，自分のこととして考えられるようにする。そして，著作権とは何か正しく理解し，著作権を尊重することができる態度を養うようにする。

次に，インターネットでの検索や図書などで調べ学習をすることが多いので，「情報の信憑性」について指導する。児童の多くは教科書や図書，ネット上の記事をそのまま鵜呑みにして，調べたこととしてノートにまとめることが多いと考えられる。そこで，インターネットで情報を検索している場面を２組設定し，正しい情報とうその情報をお互いに調べさせる。そして，一斉に調べたことを発表させることで，情報の違いに気付かせ，受け取った情報だけを信じて判断せず，別の方法で確かめることを理解させる。

最後に，実態調査でも間違った理解をしていた「コンピュータウイルス」について指導する。コンピュータウイルスとは何か，プレゼンテーションを活用して正しい知識を身につけさせるようにする。スライド１枚に対して何が問題か考えさせて，全体で交流して次のスライドに進むように指導する。

いずれの内容も自作の情報モラル教材を活用して，学習を展開していく。学習内容に応じて少人数のグループによる話し合い活動を取り入れ，プレゼンテーションを見ながら一斉に学習していく活動を取り入れたりする。そして，このような学習活動を意図的・計画的に繰り返し指導していくようにする。

２　指導計画

	題材名	目標：◎と指導内容：※
１次	チェーンメール	◎チェーンメールが社会に与える影響を理解し，正しく対応できる態度を養うことができる。 ※チェーンメールが配布された状況を設定し，自分だったらどうするか考えさせる。
２次	ワンクリック詐欺	◎ワンクリック詐欺の問題点や犯罪性を知り，避ける方法を考えることができる。 ※知らない人っからのメールを開いて，アドレスをクリックするかしないか考える場面を設定し，自分だったらどうするか考えさせる。
３次	著作権	◎人の著作物には著作権があることを理解させ，著作物を守ろうとする態度を養うことができる。 ※学習の表現物作りの場面において，ネット上の作品を勝手に使用してよいかどうか考えさせる。
４次（本時）	情報の信憑性	◎受け取った情報だけを信じて判断せず，別の方法で確かめることを理解することができる。 ※正しい情報とうその情報を提示して，友達の情報との違いに気づかせ，何が問題なのか考えさせる。
５次	コンピュータウイルス	◎コンピュータウイルスに対する簡単な知識を身につけることができる。 ※ファイル共有ソフト，コンピュータウイルス，個人情報漏洩についてプレゼンテーションを基に考えさせる。

３－５　本時指導案

１　題材名「コンピュータウイルス」

２　教材観

本教材は，コンピュータウイルスについて正しい知識を身につけるための教材である。言葉だけではなく，絵を使って視覚的に理解できるようにしている。コンピュータウイルスがどのようなものか知り，どんなことで感染するのか考えていく。そして，感染しないための方法を理解する。これからの情報化社会においてセキュリティの知識を身につけることはたいへん意義深いと考える。

３　本時

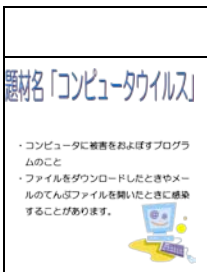
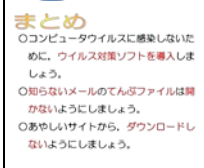
（１）情報モラル指導のねらい（h3-1）

本時目標：コンピュータウイルスに対する簡単な知識を身につけることができる。

（２）準備

パソコン，プロジェクター，スクリーン，情報モラル教材，学習プリント

（３）展開

	学習活動・内容	指導上の留意点	配時
	１　コンピュータウイルスについて知っていることを発表する。	＊正しいか間違っているかは別に，児童に知っていることを発表させる。	３
	２　本時のめあてを知る。 めあて コンピュータウイルスとは何か考えよう。		１
	３　プレゼンテーションを見ながら，コンピュータウイルスについて考える。	＊プレゼンテーションを見ながら，コンピュータウイルスについて考えさせ，対応策も指導する。	７
	４　本時学習をまとめる。	＊プレゼンテーションで， ①むやみにダウンロードしない。	１
	５　本時学習を振り返る。 ○学習プリントに分かったことやこれから気をつけたいことを書く。	②ウイルス対策ソフトを導入して，常時最新版にすること。を，押さえるようにする。	３

（４）評価

評価規準：コンピュータウイルスが何か知ることができる。

評価方法：学習プリントの自己評価と感想文

学習プリント　「コンピュータウイルス」

名前（　　）

めあて

コンピュータウイルスとは何か考えよう。

○コンピュータウイルスについて知っていることを書きましょう。

○今日の学習で・・・

①コンピュータウイルスに感染しないようにするには，どのようなことに気をつければよいか考え，自分の考えをもつことができましたか。

1（いいえ）　2　3　（はい）4

②コンピュータウイルスが何か分かりましたか。

1（いいえ）　2　3　（はい）4

③学習前と学習後を比べて，分かったことや今後気をつけたいことを書きましょう。

〇本時

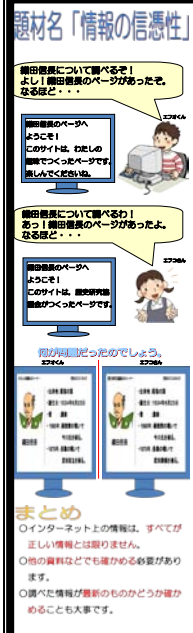
〇社会科　　：「明治の新しい世の中」 1/4

・本時目標：２枚の絵を見比べて，ペリー来航の前後で人々の生活や考え方が，大きく変わったこと（文明開化）を理解することができる。

〇情報モラル：「情報の信憑性」

・本時目標：受け取った情報だけを信じて判断せず，別の方法で確かめることを理解することができる。

〇展開

スライド	学習活動・内容	指導上の留意点	配時
	1　ペリー来航前後の２枚の絵を見比べて，変わったところを考えて発表する。 〇比較の観点 ①衣服　②住居　③町の様子 2　本時のめあてを確認する。 めあて 江戸時代からの変化について調べよう。	＊２枚の拡大した絵を提示する。 ＊見比べて変わったところを，学習プリントに箇条書きで書くように伝える。 ＊調べるという言葉から，情報モラル教育に意識をつなげる。	9 1
	【情報モラル教育】 3　たろう君とはなこさんが，社会の調べ学習をしているプレゼンテーションを見る。 4　本時の情報モラルのめあてを知る。 5　プレゼンテーションを見て，自分の考えを学習プリントに書く。 6　考えたことを発表する。 7　本時の情報モラル教育をまとめる。 8　本時学習を振り返る。 〇学習プリントに分かったことや社会の調べ学習等で気をつけたいことを書く。	＊たろう君とはなこさんに分かれて異なった情報を見せる。 ＊分かれた２組で，一斉に調べたことを発表させる。 ＊情報モラルのめあて（どうして調べたことがちがっていたのか考えよう。）をスライドで提示するようにする。 ＊プレゼンテーションの画面を良く見て考えさせるようにする。 ＊プレゼンテーションで， ①情報を鵜呑みにせず，正しい情報か判断すること。 ②新しい情報を調べるようにすること。を，押さえるようにする。	3 1 2 5 1 3
	9　教科書や資料集をもとに，他にも変わったことはないか調べる。 〇比較の観点 ④食生活　⑤その他（新聞，鉄道等） １０　調べたことを発表する。 １１　本時学習をまとめる。 生活の様子や考え方などが，以前に比べて大きく変わったことを，「文明開化」という。	＊情報モラル教育を活かして（複数の資料をもとに），調べ学習をするように伝える。 ＊複数の資料から事実が確かめられるように，調べたことの根拠（資料）を必ず発表させるようにする。	8 7 5

＊社会科の資料をもとに事実を調べる学習活動で，多くの情報（web，教科書，よいこの社会科、資料集等）の中から，情報を正しく安全に利用できるように，情報モラル教育「情報の信憑性」を取り挙げて指導する。

板書計画

情報の信ぴょう性

スクリーン

まとめ

○インターネット上の情報は，すべてが正しい情報とは限りません。

○他の資料などでも確かめる必要があります。

○調べた情報が最新のものかどうか確かめることも大事です。

・情報がちがう。
・更新日が古い。
・web を作っている人が違う。

明治の新しい世の中

めあて

江戸時代からの変化について調べよう。

江戸の町の様子 → 明治の町の様子

・洋服を着ている人がいる。
・髪型がちがう。
・洋風の傘を差している。
・煉瓦造り。

・窓ガラス。鉄道馬車、ガス灯。
・外国人らしい人。
・牛肉を食べるようになった。
・新聞の発行。鉄道の開通。

まとめ　生活の様子や考え方などが以前に比べて大きく変わったことを「文明開化」という。